

価値の三様

- ◆ 創造価値
- ◆ 体験価値
- ◆ 態度価値

ビクトール・エミール・フランクルの提唱。第二次世界大戦中のナチス強制収容所から生還し、その体験をしるした「夜と霧」は生きる意味を探求している。

(一) 一〇七九年(元豊二年)三月 四十四歳

罷徐州往南京馬上走筆寄子由五首其一 第13回宋詩鑑賞講義 (2022.02.24)

徐州を罷めて南京に往かんとして、馬上にて筆を走らせて子由に寄す。

吾生如寄耳 吾が生は寄するが如きのみ
 寧獨爲此別 寧ぞ独り此の別れを為さん
 別離隨處有 別離は随処に有り
 悲惱縁愛結 悲惱は愛に縁つて結ばれる

(二) 一〇七九年(元豊二年)十二月二十九日 四十四歳

「予は事を以て御史台の獄に繋がる。……」第13回宋詩鑑賞講義 (2022.02.24)

此の災わざわいは何ぞ必ずしも深く追とがい咎とがめん。禄ぬすを竊ぬすみしこと従かねて来より豈やに
 因有るにや。 吉川幸次郎 人間詩話
 関連して “悲哀の止揚” 吉川の宋詩概説に於ける所説。

(三) 一〇九五年(紹聖二年)六十歳 在惠州

四月十一日初食荔支 四月十一日初めて荔支を食くらふ

我生涉世本為口 我が生世わたを涉わたる 本口もとの為もなり
 一官久已輕蒨鱸 一官久しく已に尊じゆんろ鱸を軽かんず
 人間何者非夢幻 人間何者か夢幻に非あざらむ
 南來萬里眞良圖 南來万里 眞まことに良圖

(四) 一〇九七年(紹聖四年) 六月頃 六十二歳

海南島への転居を命ぜられた時。

次前韵寄子由

前韻に次して子由に寄す

我少即多難

我は少わかきより即ち難み多く

遭回一生中

一生の中に遭てんかい回す

(うろろろする)

百年不易滿

百年は満たすに易からず

寸寸彎強弓

寸々に強弓を彎ひく

老矣復何言

老いたる矣かな復た何をか言わん

榮辱今兩空

栄えも辱しめも 今は両ともに空し

泥洹尙一路

泥洹ねはんは尙お一路

所向餘皆窮

向う所 余あとは皆な窮す

(五) 一〇九七年(紹聖四年) 七月頃 六十二歳

海南島の儋たんに着く。

和陶擬古九首其三 陶の擬古九首に和す

吾生如寄耳

吾が生は寄するが如きのみ

何者為吾廬

何者をか吾が廬とわらひとなす

去此復何之

此を去りて復また何いづくくにか之ゆく

少安與汝居

少ちひくは汝が居に安んぜよ

(注) 陶淵明「歸去来の辞」曷なんぞ心を去留に任ねざる。

胡なんすれど為 皇皇(あわただしい)として、何れに之ゆかんとす。

(六) 一一〇〇年(元符三年) 六十五歳

嶺南より南嶺山脈の険阻な峠を越える

鬱孤臺

吾生如寄耳

吾が生は 寄するが如きのみ

嶺海亦閑游

嶺海も 亦た閑游なりき